

テーマ：『 生物教材の有効利用について』

横須賀市立

北下浦中学校

Tel. 046-848-0104

担当者：

横地 拓男



■実践内容：

中学校理科の学習において、生物分野の学習を展開するにあたって、生きた生物を教材化して直接体験による授業を模索した。今回は特に、動物の分類の学習において多くの動物を用意して間近に観察しながら動物を共通な特徴から分類する授業をメインに行った。なお、その他に、遺伝ではオオクワガタのカラーアイを、生殖ではウニの受精及び卵割を、植物では昨年から取り組んできた植物を使って授業を進めてきた。

■実践成果：

直接体験ということで生徒の関心意欲が高く、資料を使用しての授業とは格段の違いがあった。同時に、生徒たちはちょっとした観察から経験として知識を得、それを考察するに至ったことから、科学的な思考力を養ううえでもとても有効であったといえる。また、生命に対する考え方も浅いものから深みを増し、学年を進むにつれての学習に深みと広がりを見せた。

■実践ポイント：

今回の取り組みでは、生物の「直接体験」がキーワードであったため、見るだけでなく触ったりすることもあるので感染症に注意し、うすいゴム手袋を着用するように指導した。また、生物はふだんから生徒が見られるように理科室内や屋外に飼育、栽培して身近な感覚を持てるようにした。郷土の生物については野生からしばらく殺菌等を考えて飼育して生徒が観察できるようにした。